＜Ｉ＞　令和５年度　教育研究活動等について

１．大学の教育研究上の目的に関すること…※令和５年度

（１）修文大学の目的（修文大学学則第１条）

平成 31(2019)年に改訂された修文大学学則第 1 条において、「本学は、教育基本法並びに学校教育法に準拠し、広く知識・教養を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、平和社会の発展と福祉に貢献することのできる社会に有為な人材を育成することを目的とする。」と定めている。

経済活動のグローバル化が加速する一方で、少子・超高齢化がすすむ日本社会。本学はこれからの時代にさらなる拡充が求められる医療・健康等の各分野で活躍できるスペシャリストの育成を目指している。それぞれの専門的な学問領域がリンクする環境で、今後の社会で求められる力を学生に身につけさせるのが本学の使命・目的である。

１）健康栄養学部の目的

人間を重視し、人間の生き方の創造に貢献できる管理栄養士、栄養士、栄養教諭の養成を目指し、国民の生活の質の向上と食生活の改善に携わるのに相応しい能力と専門的知識を持った人材を養成することを目的とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成指針）：Curriculum policy

管理栄養学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するため、下記の基本的な考え方に基づいてカリキュラムを編成している。

1. 教養分野科目および専門関連基礎分野の学習
2. 専門基礎分野および専門分野の学習
3. 管理栄養士に必要な教養および知識・技術の修得
4. 臨地実習による知識と技術の融合
5. 自己啓発のための積極的・継続的な学習の確保

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）：Diploma policy

管理栄養学科では、所定の単位を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学士（栄養学）の学位を授与する。

1. 豊かな人間性と高い倫理観
2. 食・栄養・健康に関する幅広い知識・技術
3. 食・栄養の観点から健康を総合的にマネジメントできる能力
4. 食・栄養の専門家として個人の栄養状態を把握し、適正な栄養管理を行う能力
5. グローバル社会に対応したコミュニケーション能力

①令和４年度の主な取り組み状況とその成果（令和４年度の検証）

学生が満足するキャンパスライフになるよう、「学生ファースト」をスローガンに掲げて活動している。主な取り組みは、

1）入学時の目標に掲げている管理栄養士の資格取得に全力で支援する。
一朝一夕に合格率を上げることは難しいが、受験希望者を全員受験させるとの基本方針は変えず、令和２年度（令和３年３月実施）63%、令和３年度 69%、令和４年度 67%との結果を残すことができた。

2）学生生活を総合的に支援する仕組みの確立。
学部教員で構成される委員会として、①教務、②学生支援会、③臨地実習、④就職委員会および⑤国試対策講座を開設し、学部内の種々行事を企画・実施することとした。コロナ禍であり、集団で行動するような活動はできなかったが、
①教務委員会は、授業のあり方等を学生の視点に立って検討している。
②学生支援委員会は、学部主催の卒業式、春期・秋季のオリエンテーションおよびオープンキャンパスの計画立案から実施まで行っている。
③臨地実習委員会は、学生が初めてキャンパス外に出る実習であり、事前事後指導のほか、実習先の決定、実習先への挨拶回りなどを行っている。
④就職委員会は、学生一人一人と面談し、希望する職種に関するアドバイスを行っている。
⑤国試対策講座は、国試対策としての詳細な年間スケジュールの立案に加え、学生の叱咤激励を行っている。

3）ディプロマ・ポリシー到達度評価シートを作成した。
ディプロマ・ポリシー５項目がどの程度達成できたかを学生自身が学業成績や日常生活で取り組んだ事柄を入力し、数値化するものである。この評価シートを参考に各クラス担任が個別面談している。

②コロナ禍の中で行った授業等で教育の質の保証（令和４年度の検証）

コロナ禍ではあったが、「感染しない・させない」を肝に銘じ、コロナ発生以前とほぼ同様に、実験実習のみならず講義においても対面授業を実施した。ただし、給食管理実習においては、調理後の食事を摂ることから令和３年度と同じようにテイクアウトの弁当方式とした。これ以外は、コロナ以前と同じ内容に授業を行っているので教育の質は維持されたものと思われる。

２）看護学部の目的

人間としての尊厳と人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性に裏付けられた感性により人々との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて個人の置かれた状況に最適な看護を提供できる専門的な知見と技術を持った看護師を育成することを目的とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成指針）：Curriculum policy

建学の精神を尊び、豊かな人間性に裏付けされた感性を培い、人として専門職業人としての知識・技術を修得することを目標としている。

この目標を達成するための基本的な考え方は次の３点に要約される。

1. 看護の対象者に対して倫理的配慮、尊厳をもって接し、信頼関係を構築し、対象者の権利の擁護と意思決定を支援できる看護実践者を育成する。
2. 科学的根拠と判断力を持ち、地域社会における人々の健康増進、健康回復、疾病予防や生活の質向上に貢献できる看護実践者を育成する。
3. 看護の対象者にチームで協働できる基盤作りや医療チームメンバーの役割を認識して対象者への情報交換・連携ができる看護実践者を育成する。
4. 質の高い看護を提供するために生涯にわたり自己研鑽と研究的姿勢を持ち続けることができる看護実践者を育成する。
5. 国内外を問わず、あらゆる対象者の健康問題と看護の役割を認識できる看護実践者を育成する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）：Diploma policy

人間を重視し、人間の生き方の創造に貢献できる人材育成を目標としている。この目標に到達するために計画されたカリキュラムによって学修し、定められた単位を修得するとともに次の資質、能力を身につけた者に対し、学士（看護学）の学位を授与する。

1. 生命の尊厳と人間の基本的権利を尊重できる豊かな人間性
2. 看護の現象を科学的に探究し、看護学の発展に貢献できる基礎的能力
3. 保健・医療・福祉において多職種と協働・連携する基礎的能力
4. 看護実践者として継続的に学修する能力
5. グローバル社会における健康問題と看護の役割を認識する能力

①令和４年度の主な取り組み状況とその成果（令和４年度の検証）

看護学部では今年度新入生から新しいカリキュラムが開始された。新カリキュラムに合わせ、電子テキストの導入を行った。導入にあたっては、取り扱い業者による教員対象の説明会を複数回行った。学生保護者にもノートパソコンあるいはタブレットの必要性について文書で連絡し、学生全員が購入した。電子テキストが使用可能な科目や出版社が限られており、現在は一部の科目で導入しているのみであるが、順次拡大していき、学生がいつでもどこでも自己学習できる環境を整えていきたい。

複数の外部講師によるオムニバス科目では、一科目としてのまとまりに欠け、学生の理解の妨げとなっていた。今年度はそのうちの一科目を単独講師による講義に変更するように交渉し、承諾を得ることができた。次年度からの学習効果が期待される。

今年度はトランスジェンダーの学生が入学したことを契機に、性の多様性について各自が学習するとともに、実習施設への理解を求めるなどの活動を行った。FD では全教員参加によるハラスメント研修を行い、性の多様性に伴うハラスメント以外の、

さまざまなハラスメントの最新情報についても学習した。さらに、様々な差別をなくし、学生・教員の人権が損なわれることがないよう「修文大学看護学部人権尊重宣言」を発出した。

②コロナ禍の中で行った授業等で教育の質の保証（令和４年度の検証）

今年度も実習施設から実習受け入れ中止の連絡が相次ぎ、やむなく学内実習によって代替せざるを得ない状況下にあった。そのような中でも演劇団員の協力を得た独自のシミュレーション教育を行い、良好な学習効果をあげることができた。

加えて、本学で導入している模擬電子カルテから、多彩な設定の患者を現実さながらのデータに基づいてアセスメントし、個別性に応じた看護を考える学習をすることができた。学内にはグループワークのできる少人数収容の演習室を多数揃えていることで、学内実習においてもディスカッションを通したコミュニケーション能力の習得を推進できた。

３）医療科学部の目的

本学部学科は、健康栄養学部、看護学部と連携した教育を展開し、幅広い臨床検査の知識と技術を身につけ、医療を支える専門職業人となる人を養成する。一方、さらに高度な専門知識を身につけたいと願う学生に対しては、修士課程への進学のための指導を経て高度専門職業人や研究者となる道をひらく。そのため、優秀な専任教員を確保し、主体的に学修する学生を支援し、優秀な人材を育成できる体制を整える。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）：Curriculum policy

広い教養と主体的な学びの姿勢を身につけた臨床検査技師の養成教育を行う。
これにより、卒業後は臨床検査技師国家資格を取得し、医療施設のみならず、健診センター、検査センターなどに加えて、治験施設支援機関（SMO）、製薬・食品関連企業、医療機器メーカーなど広い分野において国民の医療と健康を支えるために活躍しうる人材を養成する。

さらに、先端臨床検査を学ぶ科目として、「質量分析検査学」を設け、質量分析の医療への応用の現状と将来性について理解を深める。

医療科学部臨床検査学科のカリキュラムは、養成する人材像および学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に照らし、次に示す臨床検査学科のカリキュラム・ポリシーに則り編成している。

1. 豊かな人間性と高い倫理観を涵養するためのカリキュラムを編成し、 成果は科目試験で評価する。
2. 臨床検査技師に求められる知識と技術を修得するためのカリキュラムを編成し、成果は科目試験、 実習試験、 臨床実習評価報告で評価する。
3. チーム医療に必要な協調性とコ ミュニケーション能力を涵養するためのカリキュラムを編成し、 成果は科目試験で評価する。

4. 課題を主体的に発見し解決する能力を涵養するためのカリキュラムを編成し、 成果は科目試験、 実習試験、 臨床実習評価報告で評価する。
5. グローバル社会に対応できる能力を涵養するためのカリキュラムを編成し、 成果は科目試験で評価する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）：Diploma policy

医療科学部臨床検査学科では、広い教養と高い倫理観、豊かな人間性、高度な専門知識及び技術、コミュニケーション力を身につけ、医療に貢献できる臨床検査技師を養成する。

本学科が養成する人材像が備えるべき要素は次の通りであり、これを学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）とする。

1. 生命の尊厳と人間の基本的権利を尊重できる豊かな人間性
2. 臨床検査に関する基礎的知識 ・ 技術
3. チーム医療における多職種連携のための協調性・ コ ミュニケーション能力
4. 医療情報を収集し主体的に学修する能力
5. グローバル社会における医療問題を認識する能力

①令和４年度の主な取り組み状況とその成果（令和４年度の検証）

医療科学部は新型コロナウイルスの流行が始まった時期である令和２年度立ち上がった学部である。当初はオンライン授業が中心であり、学生と教員のコミュニケーションをとることが難しい時期が続いた。この間、ZOOM をはじめとする IT 機器による教育を余儀なくされたことで、教員も学生も IT 機器の利用が進歩し、学生個人の学力に合わせた教育ができたり、IT 機器をうまく利用することができるようになった。３年目の令和４年度は対面教育ができるようになり、臨床検査技師教育に必須の実験や実習がスムーズに行われるようになった。学内実習は１つのテーブルに 6 人とし、学生が協力して習得する体制を整えた。令和４年度は３年生の臨地実習が始まった年である。その準備は実習委員会を中心として、各教員が病院と密な連携を取り、２ヶ月余りの臨地実習を一人の脱落者もなく無事終了した。医療科学部では１年生から５人ほどの学生に１人がアドバイザー兼ゼミ指導教員としてつき、各学生の心の問題への対処、学習支援を行ってきた。さらに国家試験合格を目指し、また、模擬テストを１年生 100 問年３回、２年生 200 問年５回、３年生 200 問年 10 回行い、特別講義を行うことで、成績を上げる工夫をした。アドバイザーは春休みに３年生の親御さんとの面談を行い、学習到達度、普段の生活、就職希望等を話し合った。３年生は初めての就職への準備として、各教員が病院、検査センターを訪問し、就職委員会、学生支援センターでまとめ、学生への情報提供を行なった。

②コロナ禍の中で行った授業等で教育の質の保証（令和４年度の検証）

令和４年度も、新型コロナウイルスの流行は続いたが、感染対策を徹底することで対面授業ができるようになった。特に学内、病院における実習も全面的に対面で行うことができた。そのため、通常の授業、実習の教育の質は十分保たれた。新型コロナ

の流行の始めである令和２、３年度のオンライン講義の利点は学習効果を高めるための特別講義や、各アドバイザーがゼミ生への時間外特別講義で利用している。

（２）修文大学短期大学部の目的（修文大学短期大学部学則第１条）･･･※令和５年度

本学は、教育基本法並びに学校教育法の定めるところに従い、修文学院の設置目的である国家、社会に貢献する人材を育成することを基本目的として、一般教養と密接な関連の下に深く専門の学芸を教授研究し、職業又は実際生活に必要な能力を養う大学教育を施し、円満な人格と豊かな情操を涵養し、平和社会の福祉に貢献することのできる社会に有為な人材を育成することを目的とする。

１）生活文化学科の目的

生活文化学科は、衣食住を基盤に、より質の高い生活や文化の創造を目指して、教育研究を行い、生活者としての高い教養と専門的な知識・技能を授け、加えて社会人に必要なマナー教育を施し、以て社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

また、生活文化学科の学生はコースを問わず、学科必修科目において生活文化に関する学びを深め、基礎教養科目において一般的な教養やビジネスマナーを習得している。そして専門教育科目において、医療事務・ファッション販売・一般事務・製菓製造といったコース毎の専門的な知識や技術を習得する。学科必修科目、コース必須科目を履修し単位を取得することで、教育目的および目標を達成することが可能となる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成指針）：Curriculum policy

生活文化学科ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 基礎教養、専門知識・技能を身につける体系的な教育課程を編成する。
2. 基礎教養課程においては豊かで柔軟な人間性を育み、広く一般教養を身に付けることで、専門科目で学ぶための基本的素養・能力を養う。
3. 専門教育課程においては、「生活者としての理解」「ビジネススキルの理解」「スペシャリストとしての理解」から成る教育課程を編成する。
4. 講義、演習、実習等を通して、学生の主体的及び協働的な学びを推進する。
5. 学修の過程を通じて、成績評価の方法・基準に基づき、適切に評価する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）：Diploma policy

以下の能力を有する学生に短期大学士（家政学）の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と社会倫理を身に付けている。
2. 生活者として教養を深め、生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と

協働して解決することができる。
3. 社会人に必要な知識や技術をもち、自らのスキルを向上するための努力を継続することができる。
4. 各分野のスペシャリストとして、専門的な知識や技能を修得している。
5. 社会の一員として貢献することができる。

２）幼児教育学科　第一部・第三部の目的

幼児教育学科は、幼児の教育・保育に必要な教育研究を行い、専門の知識、技術、技能を授け、加えて社会人として求められるマナー教育を施し、専門職としての倫理観、指導力等の保育実践力を備えた幼稚園教諭・保育士を養成し、以て社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

また、基礎教養科目を通し社会人としての基礎を学び、幼児の教育・保育に関わる専門的な知識や技術を習得するカリキュラムとなっている。幼児教育学科においても、必要な単位を履修することで、学科の定める教育目的・目標を達成することが可能となる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成指針）第一部・第三部
：Curriculum policy

幼児教育学科ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針で教育課程を編成し、実施します。
1. 基礎教養、専門知識・技能を身に付ける体系的な教育課程を編成する。
2. 基礎教養科目においては豊で柔軟な人間性を育み、広く一般教養を身に付けることで、専門科目で学ぶための基本的素養・能力を養う。
3. 専門教育科目においては幼児教育・保育の目的と使命、子どもの理解に関わる専門知識・技能を学ぶ。
4. 講義、演習、実習等を通して、学生の主体的及び協働的な学びを推進する。
5. 学修の過程を通じて、成績評価の方法・基準に基づき、適切に評価する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）第一部・第三部
：Diploma policy

以下の能力を有する学生に、本学幼児教育学科の卒業を認め、短期大学士（教育学）の学位を授与します。
1. 豊かな人間性と、社会倫理を身に付けている。
2. 幼児教育・保育の専門家として、専門的な知識や技能を修得している。
3. 幼児教育・保育の専門家として、学び続ける姿勢を持っている。
4. 幼児教育・保育の当事者と協働できるルール・マナーを身に付けている。
5. 社会の一員として貢献することができる。

①令和４年度の主な取り組み状況とその成果（令和４年度の検証）

学科の目的、ディプロマ・ポリシーを成就するため、専門職（保育職）への従事

意欲の高揚と実践力を身につけた学生を育てることを念頭に教育活動に取り組んできた。最終的に保育職への就職比率、第一部 97%、第三部 89%となりほぼ目的を達成することができた。

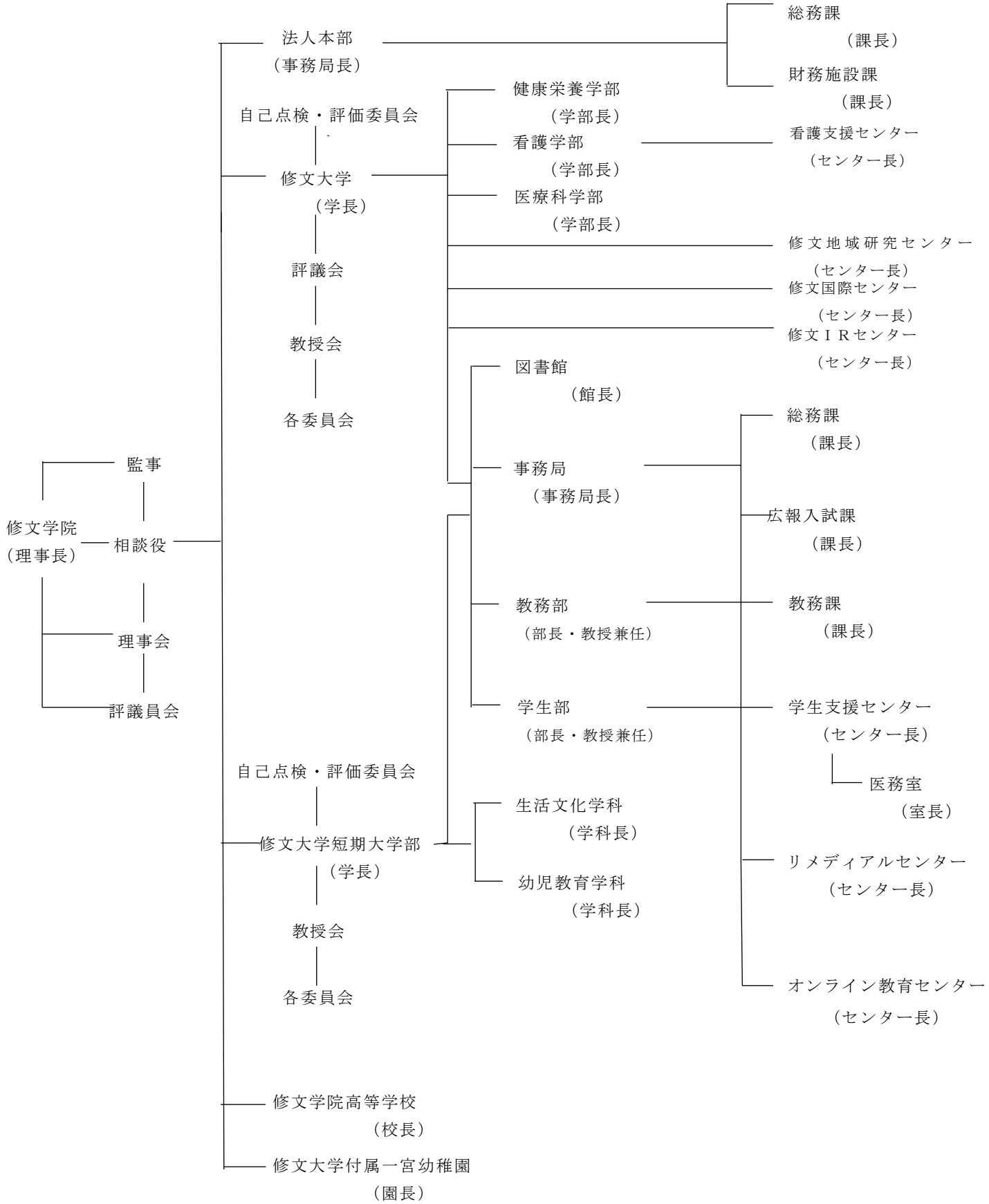
また、学習意欲の低下や将来目標の不明確な学生へのアプローチを意識した結果、休学者、退学者の減少につなげることができた。

②コロナ禍の中で行った授業等で教育の質の保証（令和４年度の検証）

新型コロナウイルス感染症の拡大による活動自粛の影響を受けながらも、感染対策を施した上で対面方式の授業を行うことができた。感染や濃厚接触者となったために登校が叶わない学生に対しては、登校可能となった後、授業内容の伝達、補講、課題学習などを行い、学生への教授内容に欠損がでないよう配慮した。

２．教育研究上の基本組織に関すること…※令和５年度

（１）学校法人修文学院管理運営組織図



（２）修文大学・修文大学短期大学部 学部・学科・課程等の名称

大学等	学部・研究科等	学　科	課程等
修文大学	健康栄養学部	管理栄養学科	
	看護学部	看護学科	
	医療科学部	臨床検査学科	
	短期大学部	生活文化学科	生活・医療事務コース
			オフィスキャリアコース
			製菓コース
		幼児教育学科	第一部
			第三部

３．教員組織、教員の数ならびに各教員が有する学位及び業績に関すること

（１）教員組織…※令和５年度

①修文大学

健康栄養学部

大　学	学　部	職名・氏名
修　文　大　学 教授・医学博士 学長 丹羽　利充	健康栄養学部 学部長・教授 田村　　明	教　授　　山下　照夫 教　授　　小田　雅嗣 教　授　　吉野　佳織 教　授　　渡辺　昭 教　授　　大矢　友子 教　授　　川井　久美 教　授　　近藤　浩代 准教授　　丹羽　利夫 准教授　　田中　秀吉 准教授　　佐々木　政司 講　師　　多田井　幸揮 講　師　　小島　真由美 講　師　　水田　文 講　師　　南　亜紀 助　教　　坂本　達哉 助　手　　吉田　安友子 助　手　　井村　奈穂 助　手　　石堂　梨早 助　手　　浦川　明里 助　手　　友松　実莉

看護学部

大　学	学　部	職名・氏名
修　文　大　学 教授・医学博士 学長　丹羽　利充	看　護　学　部 学部長・教授 池松　裕子 学科長・教授 春田　佳代	教　授　　相撲　佐希子 教　授　　茂木　泰子 教　授　　山口　陽子 教　授　　北林　由紀子 准教授　　青山　京子 准教授　　那波　潤美 准教授　　神谷　美香 准教授　　浅場　香 准教授　　大村　政生 講　師　　足立　勝宣 講　師　　夏目　恵美子 講　師　　平野　明美 講　師　　諏訪　美栄子 講　師　　松野　智香子 助　教　　東山　新太郎 助　教　　中村　美奈子 助　教　　和田　恵子 助　手　　小島　一輝 助　手　　長江　綾 助　手　　小出　弥子 助　手　　青山　つばさ 助　手　　牧野　由美子 助　手　　吉川　千晶 助　手　　瀧川　綾香 実習指導員　内藤　紀見 実習指導員　柴田　竹晴 実習指導員　後藤　香織

医療科学部

大　学	学　部	職名・氏名
文　大　学 教授・医学博士 学長　丹羽　利充	医療科学部 学部長・教授 磯部　健一	教　授　荒川　宜親 教　授　長坂　徹郎 教　授　大西　一功 教　授　越川　卓 教　授　吉田　佳督 教　授　涌澤　伸哉 教　授　高木　明 教　授　中西　豊文 教　授　近藤　孝明 准教授　加藤　洋介 准教授　和知野　純一 講　師　橋本　克訓 講　師　鈴木　隆佳 講　師　松原　宏紀 講　師　岩﨑　卓識 講　師　帖佐　光洋 助　教　安藤　善孝 助　教　法月　千尋 助　手　梶浦　容子 助　手　蜂須賀　大輔 助　手　川岸　郁子

②修文大学短期大学部

生活文化学科

大　学	学　科	職名・氏名
修文大学短期大学部 教授・医学博士 学長　丹羽　利充	生活文化学科 学 科 長・教授 櫻井　理恵 副学科長・教授 尾上　恵子	教　授　相墨　一彦 准教授　鴨居　由紀子 講　師　増尾　明 助　教　小倉　多恵子 助　手　竹内　智子 助　手　石井　遥

幼児教育学科（一部・三部）

大　学	学　科	職名・氏名
修文大学短期大学部 教授・医学博士 学長　丹羽　利充	幼児教育学科 学 科 長・教授 加藤　渡 副学科長・教授 有働　真太郎	教　授　　中野　靖彦 教　授　　栗木　節子 教　授　　中西　遍彦 准教授　　笹瀬　ひと美 講　師　　青山　勇樹 講　師　　友永　良子 講　師　　高橋　早紀子 講　師　　山川　昭大 講　師　　吉澤　幸 講　師　　赤井　治美 講　師　　淺川　正堂 講　師　　濱口　美紗希

（２）専任教員数等…※令和５年度

①修文大学

健康栄養学部　　令和５年４月１日現在

学部・学科名	専任教員数					助手	備考
	教　授	准教授	講　師	助　教	計		
健康栄養学部 管理栄養学科	8(4)	3(0)	4(3)	1(0)	16(7)	5(5)	（ ）内は女性

看護学部　　令和５年４月１日現在

学部・学科名	専任教員数					助手	備考
	教　授	准教授	講　師	助　教	計		
看　護　学　部 看　護　学　科	6(6)	5(4)	5(4)	3(2)	19(16)	7(6)	（ ）内は女性

医療科学部　　令和５年４月１日現在

学部・学科名	専任教員数					助手	備考
	教　授	准教授	講　師	助　教	計		
医療科学部 臨床検査学科	11(0)	2(0)	5(0)	2(1)	20(1)	3(2)	（ ）内は女性

②短期大学部　　令和５年４月１日現在

学部・学科名	専任教員数					助手	備考
	教　授	准教授	講　師	助　教	計		
生活文化学科	3(2)	1(1)	1(0)	1(1)	6(4)	2(2)	
幼児教育学科 第一部	3(1)	0(0)	3(2)	0(0)	6(3)	0	
幼児教育学科 第三部	2(0)	1(1)	5(3)	0(0)	8(4)	0	
（合　計）	8(3)	2(2)	6(5)	1(1)	20(11)	2(2)	（ ）内は女性

（３）専任教員等の年齢構成表…※令和５年度

①修文大学

区　分	年齢ごとの専任教員数（助教以上）							助手等の平均年齢	備考
	70 以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29 以下	平　均 年　齢		
合計人数 (55 人)	7	15	15	14	3	1	55.9	37.5	
割　合	12.7	27.3	27.3	25.5	5.5	1.8			

②修文大学短期大学部

区　分	年齢ごとの専任教員数（助教以上）							助手等の平均年齢	備考
	70 以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29 以下	平　均 年　齢		
合計人数 (20 人)	1	6	5	4	4	0	54.3	28.5	
割　合	5.0	30.0	25.0	20.0	20.0	0			

（４）教員１人あたり学生数…※令和５年度

学部等	学生数	教員数	１人あたり学生数
健康栄養学部	143	16	8.9
看護学部	449	20	22.5
医療科学部	274	20	13.7
短期大学部	316	20	15.8

（５）収容定員充足率…※令和５年度

学部等	学生数	定　員	定員充足率
健康栄養学部	143	320	44.7
看護学部	449	400	112.3
医療科学部	274	320	85.6
短期大学部	316	880	35.9

（６）専任教員と非常勤教員の比率…※令和５年度

①修文大学大学　　５５：５３（専任：非常勤）

②修文大学短期大学部　　２０：６４（専任：非常勤）

（７）学位授与数…※令和４年度実績

①修文大学大学　　１２９（令和４年度卒）

②修文大学短期大学部　　１５７（令和４年度卒）

（８）教員の業績等…※令和５年度

①修文大学

健康栄養学部

番号	職位等	氏　名	学位等	主な担当科目	資格等
1	学部長 教　授	田村　明	博士（薬学）	管理栄養士概論	薬剤師・臨床検査技師
2	教　授	川井　久美	博士（医学）	解剖生理学Ⅰ	医師
3	教　授	山下　照夫	博士（獣医学・医学）	食品学衛生	獣医師
4	教　授	小田　雅嗣	学士（農学）	公衆栄養学	管理栄養士
5	教　授	吉野　佳織	博士（医学）	栄養教育論	管理栄養士
6	教　授	渡辺　昭	学士（農学）	基礎化学	
7	教　授	大矢　友子	博士（農学）	食品学・食品分析学	
8	教　授	近藤　浩代	博士（人間・環境学）	管理栄養士概論	管理栄養士
9	准教授	丹羽　利夫	博士（農学）	食品学	
１０	准教授	佐々木　政司	修士（教育学）	教育心理学	
１１	准教授	田中　秀吉	修士（健康科学）	調理学	管理栄養士
１２	講　師	多田井　幸揮	修士（健康科学）	応用栄養学実習	管理栄養士
１３	講　師	小島　真由美	博士（栄養科学）	栄養総合演習Ⅰ	管理栄養士
１４	講　師	水田　文	修士（農学）	応用栄養学	管理栄養士
１５	助　教	南　亜紀	修士（栄養学）	栄養教育論	管理栄養士
１６	助　教	坂本　達哉	修士（ｽﾎﾟｰﾂ科学）	体育実技	
１７	助　手	吉田　安友子	修士（生活科学）		管理栄養士
１８	助　手	井村　奈穂	学士（栄養学）		管理栄養士
１９	助　手	石堂　梨早	学士（栄養学）		管理栄養士
２０	助　手	瀧川　明里	学士（栄養学）		管理栄養士

看護学部

番号	職位等	氏　名	学位等	主な担当科目	資格等
1	学部長 教　授	池松　裕子	博士（Ph.D）	成人看護学Ⅰ	看護師
2	学科長 教　授	春田　佳代	修士（健康科学）	看護学概論Ⅰ	看護師・保健師
3	教　授	相撲　佐希子	修士（看護学）	看護援助論	看護師
4	教　授	茂木　泰子	博士（看護学）	精神看護学Ⅰ	看護師
5	教　授	山口　陽子	博士（看護学）	専門ゼミナール	看護師
6	教　授	北林　由紀子	修士（生体情報）	公衆衛生看護学概論	看護師・保健師
7	准教授	青山　京子	修士（人間関係学）	健康教育学Ⅱ	看護師・保健師
8	准教授	那波　潤美	修士（看護学）	母性看護学Ⅰ	看護師・助産師
9	准教授	神谷　美香	博士（看護学）	ターミナルケア論	看護師・保健師
１０	准教授	浅場　香	博士（看護学）	地域・在宅看護学Ⅰ	看護師

１１	准教授	大村　政生	修士（看護学）	小児看護学Ⅰ	看護師・保健師
１２	講　師	足立　勝宣	修士（保健学）	精神看護援助論	看護師・保健師
１３	講　師	夏目　恵美子	修士（看護学）	急性期看護援助論	看護師
１４	講　師	平野　明美	博士（医　学）	慢性期療養生活援助論	看護師・保健師
１５	講　師	諏訪　美栄子	修士（看護学）	感染看護学Ⅰ	看護師
１６	講　師	松野　智香子	修士（看護学）	母性看護援助論	看護師・保健師
１７	助　教	東山　新太郎	博士（看護学）	基礎看護学実習Ⅰ	看護師・保健師
１８	助　教	中村　美奈子	修士（看護学）	基礎看護学実習Ⅱ	看護師・保健師
１９	助　教	和田　恵子	修士（看護学）	公衆衛生看護実習	看護師・保健師
２０	助　手	小島　一輝	学士（看護学）	急性期看護学実習	看護師・保健師
２１	助　手	長江　綾	学士（看護学）		看護師・保健師
２２	助　手	小出　弥子	修士（看護学）		看護師・保健師
２３	助　手	青山　つばさ	修士（看護学）		看護師・保健師
２４	助　手	牧野　由美子	学士（人間学）		看護師
２５	助　手	吉川　千晶	修士（看護学）		看護師・助産師
２６	助　手	瀧川　綾菜	学士（看護学）		看護師・保健師
２７	実習助手	内藤　紀見	修士（看護学）		看護師
２８	実習助手	柴田　竹晴	修士（人間科学）		看護師
２９	実習助手	後藤　香織	修士（看護学）		看護師

医療科学部

番号	職位等	氏　名	学位等	主な担当科目	資格等
1	学　長	丹羽　利充	博士（医学）	病態治療学	医師
2	学部長 教　授	磯部　健一	博士（医学）	免疫学	医師
3	教　授	荒川　宜親	博士（医学）	微生物学	医師
4	教　授	長坂　徹郎	博士（医学）	人体解剖学	医師
5	教　授	大西　一功	博士（医学）	血液検査学Ⅰ	医師
6	教　授	涌澤　伸哉	博士（薬学）	薬理学	臨床検査技師 薬剤師
7	教　授	高木　明	博士（医学）	医用工学概論	臨床検査技師
8	教　授	越川　卓	博士（医学）	臨床検査総論	医師
9	教　授	吉田　佳督	博士（医学）（薬学）	保健行政論	薬剤師
１０	教　授	中西　豊文	博士（医学）	遺伝子検査学	臨床検査技師 薬剤師
１１	教　授	近藤　高明	博士（医学）	公衆衛生学	医師
１２	准教授	加藤　洋介	博士（医療技術学）	臨床生理検査学	臨床検査技師
１３	准教授	和知野　純一	博士（医学）		臨床検査技師
１４	講　師	橋本　克訓	博士（医療技術学）	病理組織検査学	臨床検査技師
１５	講　師	鈴木　隆佳	博士（医学）	臨床化学検査学Ⅰ	臨床検査技師

１６	講　師	松原　宏紀	短期大学士	超音波解剖学	臨床検査技師
１７	講　師	岩崎　卓識	博士（医療技術学）	臨床検査学総合演習	臨床検査技師
１８	講　師	帖佐　光洋	博士（医学）	血液検査学Ⅱ	臨床検査技師
１９	助　教	安藤　善孝	学士（教養）	臨床検査総論	臨床検査技師
２０	助　教	法月　千尋	博士（医学）	病原微生物検査学Ⅱ	臨床検査技師
２１	助　手	梶浦　容子	専門士		臨床検査技師
２２	助　手	蜂須賀　大輔	修士（医学）		臨床検査技師
２３	助　手	川岸　郁子	短期大学士		臨床検査技師

②修文大学短期大学部

生活文化学科・幼児教育学科　第一部・第三部

番号	職位等	氏　名	学位等	主な担当科目	資格等
１	学　長	丹羽　利充	博士（医学）		
２	学科長 教　授	櫻井　理恵	修士（家政学）	生活文化論	
３	学科長 教　授	加藤　渡	修士（教育学）	保育内容演習（健康）	健康運動指導士・ スポーツ指導者
４	副学科長 教　授	尾上　恵子	修士（心理学）	人間関係論	
５	副学科長 教　授	有働　真太郎	修士（教育学）	教育原理	
６	教　授	中野　靖彦	博士（教育学）	保育の心理学	
７	教　授	相墨　一彦	修士（人間文化学）	製菓専門実習Ⅱ	製菓衛生師
８	教　授	中西　遍彦	修士（人間科学）	社会福祉	社会福祉士
９	教　授	栗木　節子	短期大学士	保育指導法	幼稚園教諭
１０	准教授	鴨居　由紀子	学士（教養）	製菓理論	製菓衛生師
１Ｉ	准教授	笹瀬　ひと美	短期大学士	保育内容指導法（環境）	
１２	講　師	増尾　明	博士（工学）	情報処理演習Ⅰ	
１３	講　師	青山　勇樹	学士（文学）	日本の文学	
１４	講　師	友永　良子	修士（ｴｸﾘﾁｭｰﾙ・即興）	表現技術（幼児音楽）	
１５	講　師	高橋　早紀子	修士（芸術）	表現技術（基礎音楽）	
１６	講　師	山川　昭大	修士（教育学）	保育内容指導法（造形表現Ⅰ）	小学校教諭専修
１７	講　師	淺川　正堂	修士（教育学）	幼児体育Ⅰ	保育士・幼稚園教諭
１８	講　師	赤井　治美	短期大学士	保育者論	
１９	講　師	濱口　美紗希	修士（教育学）	保育実践演習	幼稚園教諭・小学校教諭
２０	講　師	吉澤　幸	修士（教育学）	保育実習指導Ⅰ	
２１	助　教	小倉　多恵子	学士（福祉経営学）	メディカル秘書概論	
２２	助　手	竹内　智子	短期大学士		製菓衛生師
２３	助　手	石井　遥	短期大学士		製菓衛生師

４．入学者に関する受入方針及び入学者数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

・・・※令和５年度

（１）入学に関する基本的な方針（アドミッションポリシー）

１）修文大学

健康栄養学部・管理栄養学科

アドミッションポリシー：Admission policy

健康栄養学部では、人間を重視し、人間の生き方の創造に貢献できる管理栄養士、栄養士、栄養教諭の養成を目指し、国民の生活の質の向上と食生活の改善に携わるのに相応しい能力と専門的知識を持った人材を養成することを目的とする。この目的を達成するために、アドミッション・ポリシーとして、以下のように示している。

1.食・栄養・健康への関心を有する
2.栄養学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する
3.仲間と協力しながら自己研鑽に励むことができる
4.自ら学修する意欲を有する
5.管理栄養士として広く社会貢献したいと考えている

看護学部・看護学科

アドミッションポリシー：Admission policy

看護学部では、人間としての尊厳と人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性に裏付けられた感性により人々との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて個人の置かれた状況に最適な看護を提供できる専門的な知見と技術を持った看護師を育成することを目的とする。この目的を達成するために、アドミッション・ポリシーとして、以下のように示している。

1.看護職に興味と関心を有する。
2.人と積極的に関わる姿勢を有する。
3.看護学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する。
4.自ら学修する意欲を有する。
5.広く社会に貢献しようとする意欲を有する。

医療科学部・臨床検査学科

アドミッションポリシー：Admission policy

医療科学部では、広い教養と高い倫理観、豊かな人間性、高度な専門知識及び技術、コミュニケーション力を身につけ、医療に貢献できる臨床検査技師を養成することを目的としている。この目的を達成するために、アドミッション・ポリシーとして、以下のように示している。

1.生命の尊厳を理解し、医療に携わりたいという意志を有する
2.臨床検査学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する

3. 自分の意見を相手に分かりやすく伝えることができる
4. 自ら学修する意欲を有する
5. 広く社会に貢献しようとする意欲を有する

２）修文大学短期大学部

生活文化学科

修文大学短期大学部生活文化学科は建学の精神「国家社会に貢献できる人材の育成」のもと、医療事務、ビジネス、製菓に関連した分野で活躍できる、人材の育成に取り組んでいます。生活文化学科では生活文化学科ディプロマポリシーを達成するために必要な次のような人の入学を求めています。

アドミッションポリシー：Admission policy

1. 社会に貢献できる人材になろうという明確な意思を持ち、各分野のスペシャリストとしての知識や技術を修得する意欲のある人。
2. 2 年間の学修を継続するために必要な基礎学力を備えている人。
3. 集めた情報や自分の考えを分かりやすく表現し伝えようとしている人。
4. 学習やクラブ活動等に主体的に取り組み、他者と協働するコミュニケーション能力を備えた人。

幼児教育学科

修文大学短期大学部は、幼児教育・保育の分野で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。幼児教育学科では、幼児教育学科ディプロマ・ポリシーを達成するために下記のような人の入学を求めています。

アドミッションポリシー：Admission policy

1. 社会に貢献できる人材になろうという明確な意思を持つ人。
2. 幼児教育・保育の専門家としての知識や技能を修得する意欲のある人。
3. 本学での学びを継続するために必要な基礎学力を備えている人。
4. 集めた情報や自分の考えを分かりやすく表現し伝えられる人。
5. 学修やその他の活動に主体的に取り組み、他者と協働するコミュニケーション能力を備えた人。

５．その他の取り組み…※令和４年度実績

（１）海外の大学との連携

グローバル社会に対応した人材の育成も目指し、海外での留学制度や視察教育制度を充実し、海外の大学と交流して、大学の国際化を推進している。大学のホームページの英語版を作成し、大学の情報を国際的に公開している。

さらに修文国際センターを設置し、ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ、ハワイパシフィック大学とも連携協定を締結し、研究・教育の相互理解、学生の交流を進めている。

（２）地域連携

「地域社会での知の拠点としての大学の役割を強化する」として、大学・行政・企業が協働して地域産業を活性化する産学官連携を推進し、その中核的役割を果たすことを学長教育方針の一つとして実践している。

大学・短期大学部は建学の精神に基づき地域の発展に寄与できる人材の育成に取り組み、地域の産業や文化と結びつき、共に発展していかなければならない。地域社会での知の拠点としての役割を強化するために本学は、既設の「修文地域研究センター」を大学に移管し、地域連携の戦略的な拠点として地元の企業や行政と連携した活動を展開している。

この地域連携事業については下記の４つの柱に基づいて展開している。

①地域づくりの構想への提言・貢献
②文化を通じた地域づくり活動
③産業界との連携活動
④国際ネットワークの窓口

具体的な事業は以下の通りである。

１．一宮市・長野県阿南町と「包括連携協定」の締結

相互の発展に資するため、資源および研究.成果等の交流を促進し、文化、教育、学術等の分野で連携し地域の課題解決に向けて、同市と協働して様々な取り組みを実践している。

地域の地の拠点としての役割を進めていくために大学の研究成果を地域に還元することを目的に「市民大学講座」を開講し、本学教員が講師を務め、一宮市民の皆さんを対象に地域文化や健康生活の貢献を目指している。

さらに長野県阿南町とも連携協定を締結した。医療・健康・福祉・保育など、地域社会を支える人材の育成と学術振興に寄与することを目的とし、毎年阿南町及び阿南高校から推薦された学生を受け入れている。

２．地域企業との連携協定

「いちい信用金庫」「尾西信用金庫」「Ｐ．Ａ．Ｃいちのみや（地元企業・ＮＰＯ・一宮商工会議所・一宮市・本学の５社で連携）」「一宮地方総合卸売市場」等と産官学連携を深め大学の資源を提供し知の拠点として地元の発展に寄与している。また、令和４年には「株式会社湯ネックス」との産学連携に関する協定を締結した。

３．「名古屋大学大学院医学系研究科」・「藤田医科大学」と連携協定

令和３年１月に共同研究や人材交流の推進に向けた連携協定である。これにより名古屋大学と共同して人材育成、交流を通じて地域の医療の発展に貢献していく。

令和５年３月１日に藤田医科大学との連携協定を締結した。臨地実習や単位互換授業などを通じて、教育の充実を推進していく。

４．グローバル社会に対応した人材の育成

「修文国際センター」を設立し、アメリカ・ハワイコミュニティーカレッジ

（短期大学）やハワイパシフィックユニバーシティー（大学）との連携協定を結び国際的な結び付きを実践している。

５．高大連携

現在地元の高等学校である「愛知県立一宮高等学校」「愛知県立一宮商業高等学校」との連携をとり、高等学校教育と大学教育の活性化を図っている。

双方の教育機能について交流・連携を通じて高校生の視野を広げ進路に対する意識や学修意欲を高めるとともに後代の活性化を進めている。

さらに令和４年度には「愛知県立一宮北高等学校」「啓明学館高等学校」との連携協定を締結した。

６．学生同士の支援活動（修文ピアーズ）

学生同士が相互に支え合い課題解決する活動として令和３年度後期より「ピア・サポート」活動(修文ピアーズ)を開始。ピア・サポート活動とは、学生たち相互の人間関係を豊かにするための学修の場を各学校の実態に応じて設定し、そこで得た知識やスキルをもとに仲間を思いやり、支える実践活動を意味する。本学での具体的な活動内容としては、定期試験、国家試験、各種資格取得等の学修上の悩みを同輩または学年を越えて相互に支え合い解決するボランティア活動である。

このように「地域連携」「海外連携」を推進していくためには、積極的な「アクティブ・ラーニング」を活用し、学生が積極的に地域活性化や国際化に取り組み、改善・提案をするシステムを実施している。

（３）令和４年度 大学・短期大学部の入試状況…※令和４年度実績

①大学

学　部 学　科	健康栄養 管理栄養	看護 看護	医療科学 臨床検査
入学定員	80	100	80
志願者	104	598	306
入学者	43	127	78

②短期大学部

学　科	生活文化			幼児教育	
コース	生活･医療事務	ｵﾌｨｽｷｬﾘｱ	製菓	第一部	第三部
定　員	100			50	80
志願者	64			14	64
入学者	59			9	49

（４）入学者数・入学定員・収容定員・在学者数・卒業者数・進学者数

①修文大学

大学等	学部・研究科等	入学者数	入学定員	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数
修文大学	健康栄養学部	37 名	80 名	320 名	143 名	43 名	0 名
	看護学部	104 名	100 名	400 名	449 名	86 名	0 名
	医療科学部	74 名	80 名	320 名	274 名	―	―

②修文大学短期大学部

大学等	学部・研究科等	入学者数	入学定員	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数
修文大学 短期大学部	生活文化学科	73 名	100 名	240 名	132 名	68 名	0 名
	幼児教育学科 第一部	8 名	50 名	240 名	17 名	23 名	0 名
	幼児教育学科 第三部	69 名	80 名	200 名	184 名	66 名	0 名

（５）学生の状況：入学者数推移、退学・除籍等…※令和５年度実績

①入学者数推移

修文大学

学部名	入学定員	入学者数			
		令和５年度	令和４年度	令和３年度	令和２年度
管理栄養学科	80 名	37 名	43 名	50 名	19 名
看護学部	100 名	104 名	127 名	108 名	104 名
医療科学部	80 名	74 名	78 名	74 名	63 名

修文大学短期大学部

学科名	入学定員	入学者数			
		令和５年度	令和４年度	令和３年度	令和２年度
生活文化学科	100 名	73 名	59 名	69 名	58 名
幼児教育学科 第一部	50 名	8 名	9 名	23 名	10 名
幼児教育学科 第三部	80 名	69 名	49 名	66 名	77 名

②退学・除籍等…※令和４年度実績

修文大学・修文大学短期大学部

学科名	修文大学				修文大学短期大学部			
	4年度	3年度	2年度	元年度	4年度	3年度	2年度	元年度
退学・除籍者数	26名	21名	14名	16名	4名	8名	11名	20名
中退率	3.2%	2.9%	2.2%	4.1%	1.2%	2.2%	2.7%	4.2%
留年者数	47名	36名	34名	32名	3名	4名	10名	12名
社会人学生数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
留学生及び 海外派遣学生数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

（６）令和４度卒業生就職・進学状況…※令和４年度実績

修文大学

学部・学科	卒業者数 (A)名	求職者数 (B)名	内定者数 (C)名	求職率 B/A%	内定率 C/B%	家事従事 アルバイト	進学者数 (名)
健康栄養学部 管理栄養学科	43	38	34	88.3	89.5	4	0
看護学部 看護学科	86	84	84	97.7	100.0	1	1

修文大学短期大学部

学部・学科	卒業者数 (A)名	求職者数 (B)名	内定者数 (C)名	求職率 B/A%	内定率 C/B%	家事従事 アルバイト	進学者数 (名)
生活・医療事務	19	18	18	94.7	100.0	1	0
オフィスキャリア	23	22	22	95.7	100.0	1	0
製　菓	26	20	18	76.9	90.0	4	2
幼児教育 第一部	23	23	23	100.0	100.0	0	0
小　計	91	83	81	91.2	97.6	6	2
幼児教育 第三部	66	63	62	95.5	98.4	3	0
小　計	66	63	62	95.5	98.4	3	0
合　計	157	146	143	93.0	97.9	9	2

中長期計画の「第一志望就職率 90%以上」の目標の達成率については、健康栄養学部においては第一希望の医療機関または福祉施設での管理栄養士において、就職希望者の 26.3%の学生が就職できたが、求人数の少なさや他大学との競合もありまだまだ目標の値は達成できていない。反面、給食関係の希望者はほぼ希望どおりに就職でき目標値に近づいている。看護学部においては、昨年度保健師に５名が合格したが、本

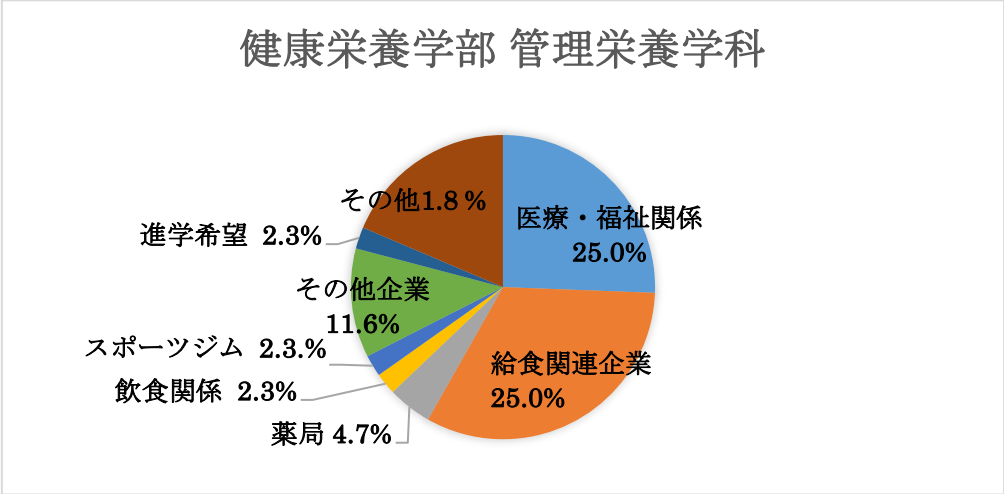
年度は希望する学生はいなかったため就職者はいなかった。就職希望者は全員看護師を希望しており全員が看護師として合格しており、目標は達成できている。

短期大学部においては、生活文化学科は医療事務、一般企業、製菓店への希望が多かった。特に一般企業および製菓店希望者については、新型コロナウイルス感染症も収束の兆しが見られ前年より採用数も回復傾向にあり、求人も職種ごとに 1 割から 2 割増加し、就職希望者はほぼ希望の職に就職でき目標に近づいている。特に医療事務においては、希望者全員が医療事務職に就くことができ、目標は達成できている。また、幼児教育学科においては、ほぼ希望の保育職に就くことができ目標を達成できている。また「公務員就職率 1.5 倍」においては一昨年度の最終合格者は目標を達成できていたが、昨年度から本年度にかけて最終合格者は減少した。次年度以降も目標値を維持できるように更なる支援をしていきたい。

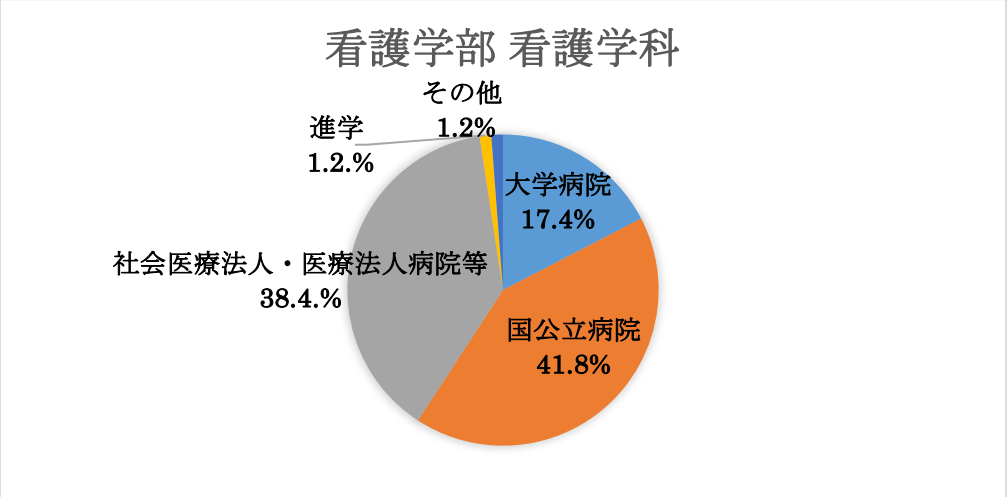
（８）令和４年度卒業生業種別就職状況等グラフ…※令和４年度実績

①修文大学

健康栄養学部　管理栄養学科

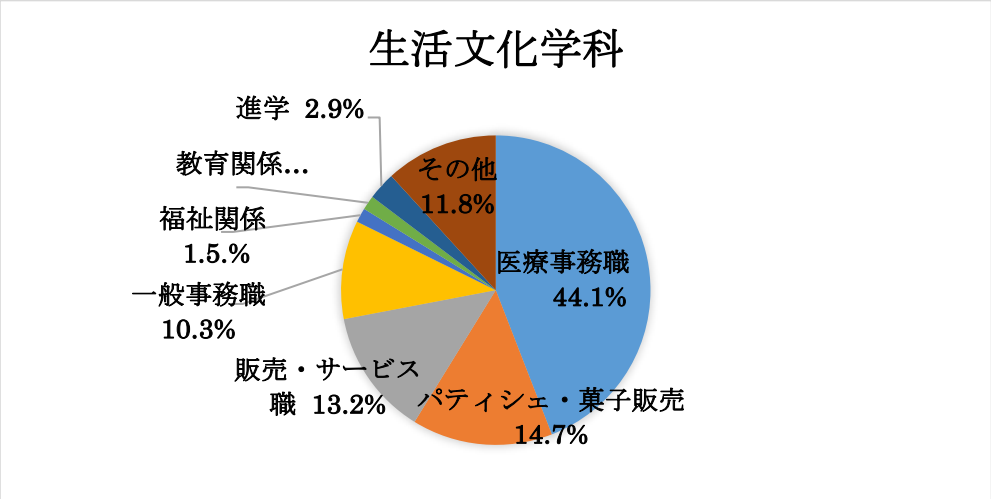


看護学部　看護学科

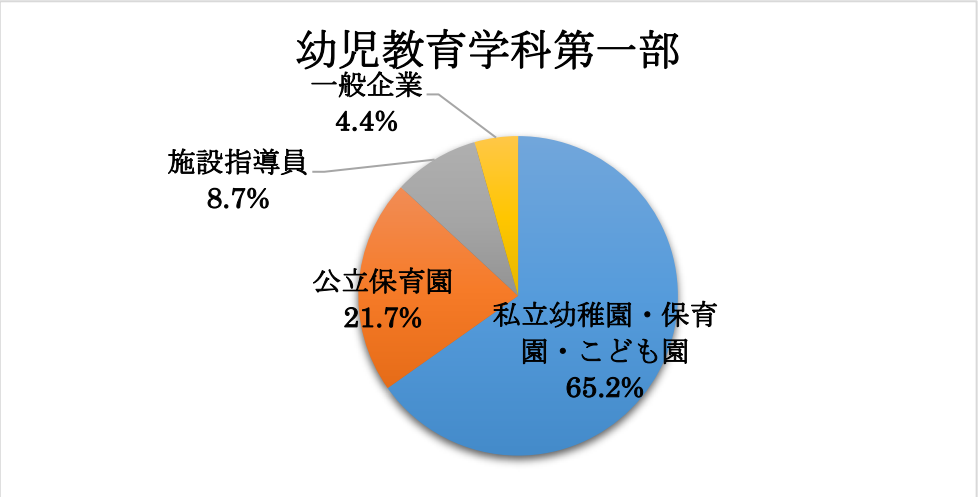


②修文大学短期大学部

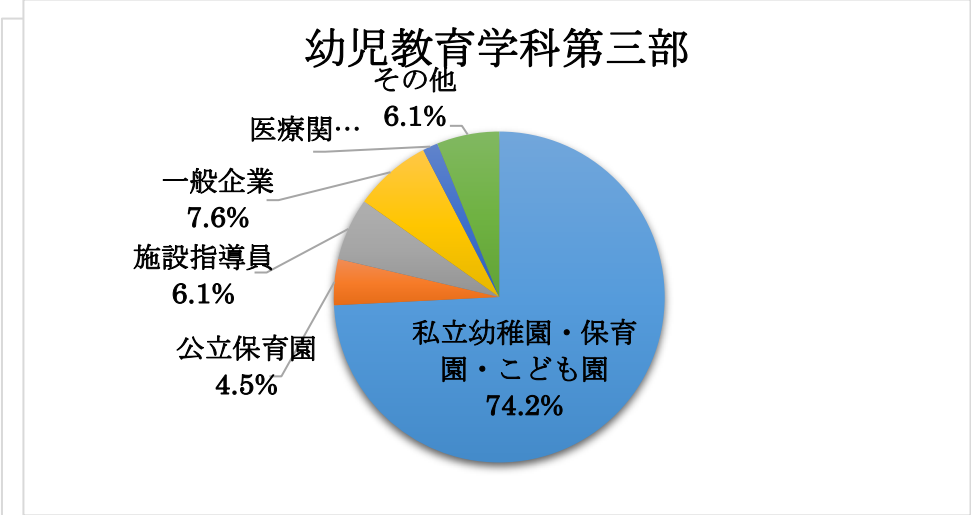
生活文化学科



幼児教育学科第一部

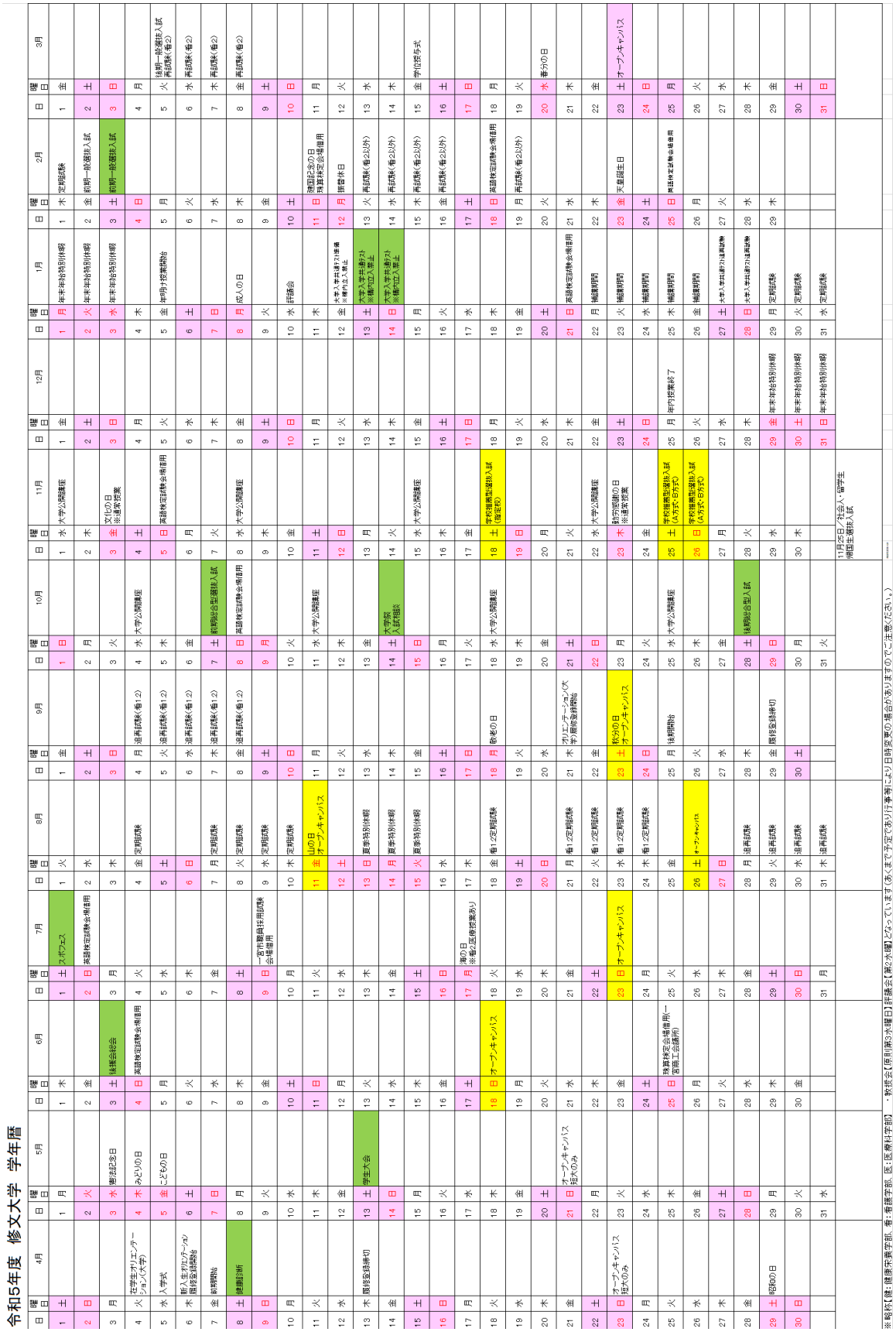


幼児教育学科第三部



５．年間の授業の計画に関すること…※令和５年度

（１）修文大学　（健康栄養学部・看護学部・医療科学部）



令和5年度　修文大学短期大学部　学年暦

日	曜日	4月	日	曜日	5月	日	曜日	6月	日	曜日	7月	日	曜日	8月	日	曜日	9月	日	曜日	10月	日	曜日	11月	日	曜日	12月	日	曜日	1月	日	曜日	2月	日	曜日	3月
1	土		1	月		1	木		1	土	スポフェス 幼教Ⅲ3　集中講義	1	火		1	金		1	日		1	水	大学公開講座	1	金		1	月	年末年始特別休暇	1	木	定期試験	1	金	
2	日		2	火		2	金		2	日	英語検定試験会場借用	2	水	補講期間 通常授業学年あり	2	土		2	月		2	木		2	土		2	火	年末年始特別休暇	2	金	前期一般選抜入試	2	土	
3	月		3	水	憲法記念日	3	土	後援会総会 幼教Ⅱ2　集中講義 幼教Ⅱ3　集中講義	3	月		3	木	補講期間 通常授業学年あり	3	日		3	火		3	金	文化の日 ※通常授業	3	日		3	水	年末年始特別休暇	3	土	前期一般選抜入試	3	日	
4	火		4	木	みどりの日	4	日	英語検定試験会場借用	4	火		4	金	補講期間 通常授業学年あり	4	月		4	水	大学公開講座	4	土		4	月		4	木		4	日		4	月	後期一般選抜入試
5	水	入学式	5	金	こどもの日	5	月		5	水		5	土		5	火		5	木		5	日	英語検定試験会場借用	5	火		5	金	年明け授業開始	5	月		5	火	
6	木	新入生・在学生 オリエンテーション 履修登録開始	6	土		6	火		6	木		6	日		6	水		6	金		6	月		6	水		6	土		6	火		6	水	
7	金	新入生オリエンテーション	7	日		7	水		7	金		7	月	定期試験	7	木		7	土		7	火		7	木		7	日		7	水		7	木	
8	土	前期開始 健康診断	8	月		8	木		8	土	幼教Ⅲ2　集中講義 幼教　卒業学年　木曜日授業	8	火	定期試験	8	金		8	日	英語検定試験会場借用	8	水	大学公開講座	8	金		8	月	成人の日	8	木		8	金	
9	日		9	火		9	金		9	日	一宮市職員採用試験 会場借用	9	水	定期試験	9	土		9	月	スポーツの日 ※通常授業	9	木		9	土		9	火		9	金	出校日（Ⅰ1年、Ⅱ1年以外）	9	土	
10	月		10	水		10	土	幼教Ⅲ2　集中講義	10	月		10	木	定期試験	10	日		10	火		10	金		10	日		10	水		10	土		10	日	
11	火		11	木		11	日		11	火		11	金	山の日 オープンキャンパス	11	月		11	水	大学公開講座	11	土	修文こどもフェスティバル準備	11	月		11	木		11	日	建国記念の日 珠算検定会場借用	11	月	
12	水		12	金		12	月		12	水		12	土		12	火		12	木		12	日	修文こどもフェスティバル	12	火		12	金	大学入学共通テスト準備 ※構内立入禁止	12	月	建国記念の日 振替休日	12	火	
13	木		13	土	学生大会	13	火		13	木		13	日	夏季特別休暇	13	水		13	金		13	月		13	水		13	土	大学入学共通テスト ※構内立入禁止	13	火	追再試験 （Ⅰ1年、Ⅲ1年以外）	13	水	
14	金	履修登録締切	14	日		14	水		14	金		14	月	夏季特別休暇	14	木		14	土	大学祭 入試相談	14	火		14	木		14	日	大学入学共通テスト ※構内立入禁止	14	水	追再試験 （Ⅰ1年、Ⅲ1年以外）	14	木	
15	土	幼教Ⅲ2　集中講義 幼教　卒業学年　水曜日授業	15	月		15	木		15	土	幼教Ⅲ2　集中講義 幼教Ⅲ3　集中講義	15	火	夏季特別休暇	15	金		15	日		15	水	大学公開講座	15	金		15	月		15	木	追再試験 （Ⅰ1年、Ⅲ1年以外）	15	金	学位授与式
16	日		16	火		16	金		16	日		16	水		16	土		16	月		16	木		16	土		16	火		16	金	追再試験 （Ⅰ1年、Ⅲ1年以外）	16	土	
17	月		17	水		17	土		17	月	海の日 ※幼教卒業学年授業あり	17	木		17	日		17	火		17	金		17	日		17	水		17	土		17	日	
18	火		18	木		18	日	オープンキャンパス	18	火		18	金		18	月	敬老の日	18	水	大学公開講座	18	土	学校推薦型選抜入試 （指定校）	18	月		18	木		18	日	英語検定試験会場借用	18	月	
19	水		19	金		19	月		19	水		19	土		19	火		19	木		19	日		19	火		19	金		19	月	追再試験 （Ⅰ1年、Ⅲ1年以外）	19	火	
20	木		20	土	幼教Ⅲ3　集中講義	20	火		20	木		20	日		20	水		20	金		20	月		20	水		20	土		20	火		20	水	春分の日
21	金		21	日	オープンキャンパス 短大のみ	21	水		21	金		21	月		21	木		21	土		21	火		21	木		21	日	英語検定試験会場借用	21	水		21	木	
22	土	幼教Ⅲ2　集中講義 幼教Ⅲ3　集中講義	22	月		22	木		22	土	幼教Ⅲ3　集中講義	22	火		22	金	短大オリエンテーション 履修登録開始	22	日		22	水	大学公開講座	22	金		22	月	補講期間	22	木	出校日（Ⅰ1年、Ⅲ1年）	22	金	
23	日	オープンキャンパス 短大のみ	23	火		23	金		23	日	オープンキャンパス	23	水		23	土	秋分の日 オープンキャンパス	23	月		23	木	勤労感謝の日 ※通常授業	23	土		23	火	補講期間	23	金	天皇誕生日	23	土	オープンキャンパス
24	月		24	水		24	土	幼教Ⅱ2　集中講義 幼教Ⅲ3　集中講義	24	月		24	木		24	日		24	火		24	金		24	日		24	水	補講期間	24	土		24	日	
25	火		25	木		25	日	珠算検定会場借用(一宮商工会議所)	25	火	補講期間 通常授業学年あり	25	金		25	月	後期開始	25	水	大学公開講座	25	土	学校推薦型選抜入試 （A方式・B方式）	25	月	年内授業終了	25	木	補講期間	25	日	英語検定試験会場借用	25	月	
26	水		26	金		26	月		26	水		26	土	オープンキャンパス	26	火		26	木		26	日	学校推薦型選抜入試 （A方式・B方式）	26	火		26	金	補講期間	26	月	追再試験 （Ⅰ1年、Ⅲ1年）	26	火	
27	木		27	土	幼教Ⅱ2　集中講義 幼教Ⅲ3　集中講義	27	火		27	木		27	日		27	水		27	金		27	月		27	水		27	土	大学入学共通テスト追再試験	27	火	追再試験 （Ⅰ1年、Ⅲ1年）	27	水	
28	金		28	日		28	水		28	金		28	月	追再試験	28	木		28	土		28	火		28	木		28	日	大学入学共通テスト追再試験	28	水	追再試験 （Ⅰ1年、Ⅲ1年）	28	木	
29	土	昭和の日	29	月		29	木		29	土	幼教　卒業学年　金曜日授業	29	火	追再試験	29	金	履修登録締切	29	日		29	水		29	金	年末年始特別休暇	29	月	定期試験	29	木		29	金	
30	日		30	火		30	金		30	日		30	水	追再試験	30	土		30	月		30	木		30	土	年末年始特別休暇	30	火	定期試験				30	土	
			31	水					31	月	補講期間 通常授業学年あり	31	木	追再試験				31	火					31	日	年末年始特別休暇	31	水	定期試験				31	日	

幼教一部2年　保育所実習Ⅱ
6/5～6/17　2週間
幼教三部3年　保育所実習
6/5～6/17　2週間

幼教一部2年　幼稚園実習
9/4～9/22　3週間
幼教三部3年　幼稚園実習
9/4～9/22　3週間
幼教三部2年　保育所実習
9/4～6/16　2週間

幼教三部2年　施設実習
10/30～11/30　10日間

11月25日／社会人・留学生
帰国性選抜入試

幼教一部1年　保育所実習
2/5～2/19　2週間

幼教一部1年　施設実習
3/4～3/31　10日間

６．学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

・・・※令和５年度

（１）修文大学

試験に関する事項は、「修文大学試験規程」に記載しています。

(1) 試験の時期

定期試験は原則として、各学期末に実施する。但し授業期間が変則の場合や先修条件により早期の判定が必要となる場合は定期試験期間外に実施する場合がある。

(2) 試験の種類

①定期試験、②追試験、③再試験の三種とする。

(3) 受験資格

受験資格について、次の各項のいずれかに該当する場合は受験資格を認めない。

①当該科目についての所定の履修手続きをしていない者。

②当該科目における出席回数が各学期の授業回数の３分の２以上に達しない者。

③所定の授業料等学納金が未納の者。ただし、延納許可を受けている者を除く。

④学生証を所持していない者。

ただし、学生証の再発行申請中の者及び不携帯の者で、教務課において、所定の手続きを行い、「仮受験票」を発行された者は受験を認める。

⑤その他、教授会において受験資格喪失の判定を受けた者。

(4) 試験の成績

各科目の成績は各学期末の試験結果、平常の学習態度、受講中の試験成績、出席日数等を斟酌し認定する。

各科目の成績については以下のとおりとする。

① 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする。

② 100 点以下 80 点以上を「Ａ」と表記する。

③ 79 点以下 70 点以上を「Ｂ」と表記する。

④ 69 点以下 60 点以上を「Ｃ」と表記する。

⑤ 59 点以下を「Ｄ」と表記し、不合格とする。

(5) 卒業（学則第 39 条）

本学に 4 年以上在学し、卒業要件の単位を修得した者は、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定する。

２　卒業の時期は、学年又は学期の終わりとする

学　　部	学　　科	学位の種類
健康栄養学部	管理栄養学科	学士（栄養学）
看　護　学　部	看　護　学　科	学士（看護学）
医療科学部	臨床検査学科	学士（臨床検査学）

学位（学則第 40 条）　本学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

（２）修文大学短期大学部

試験に関する事項は、「修文大学短期大学部試験規程」に記載しています。

（1）試験の時期

定期試験は原則として、各学期末に実施する。

（2）試験の種類

①定期試験、②追試験、③再試験の三種とする。

（3）受験資格

受験資格について、次の各項のいずれかに該当する場合は受験資格を認めない。

①当該科目についての所定の履修手続きをしていない者。

②当該科目における出席回数が各学期の授業回数の３分の２以上に達しない者。

③所定の授業料等学納金が未納の者。ただし、延納許可を受けている者を除く。

④学生証を所持していない者。

ただし、学生証の再発行申請中の者及び不携帯の者で、教務課において、所定の手続きを行い、「仮受験票」を発行された者は受験を認める。

⑤その他、教授会において受験資格喪失の判定を受けた者。

（5）試験の成績

各科目の成績は各学期末の試験結果、平常の学習態度、受講中の試験成績、出席日数等を斟酌し認定する。

各科目の成績については以下のとおりとする。

①　100 点を満点とし 60 点以上を合格とする。

②　100 点以下 80 点以上を「Ａ」と表記する。

③　79 点以下 70 点以上を「Ｂ」と表記する。

④　69 点以下 60 点以上を「Ｃ」と表記する。

⑤　59 点以下を「Ｄ」と表記し、不合格とする。

卒業（学則第 33 条）

本学に生活文化学科及び幼児教育学科第一部は２年、第三部は３年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

短期大学士の学位

学則第 33 条の規定により卒業した者には、本学学位規定に定めるところにより短期大学士の学位を授与する。

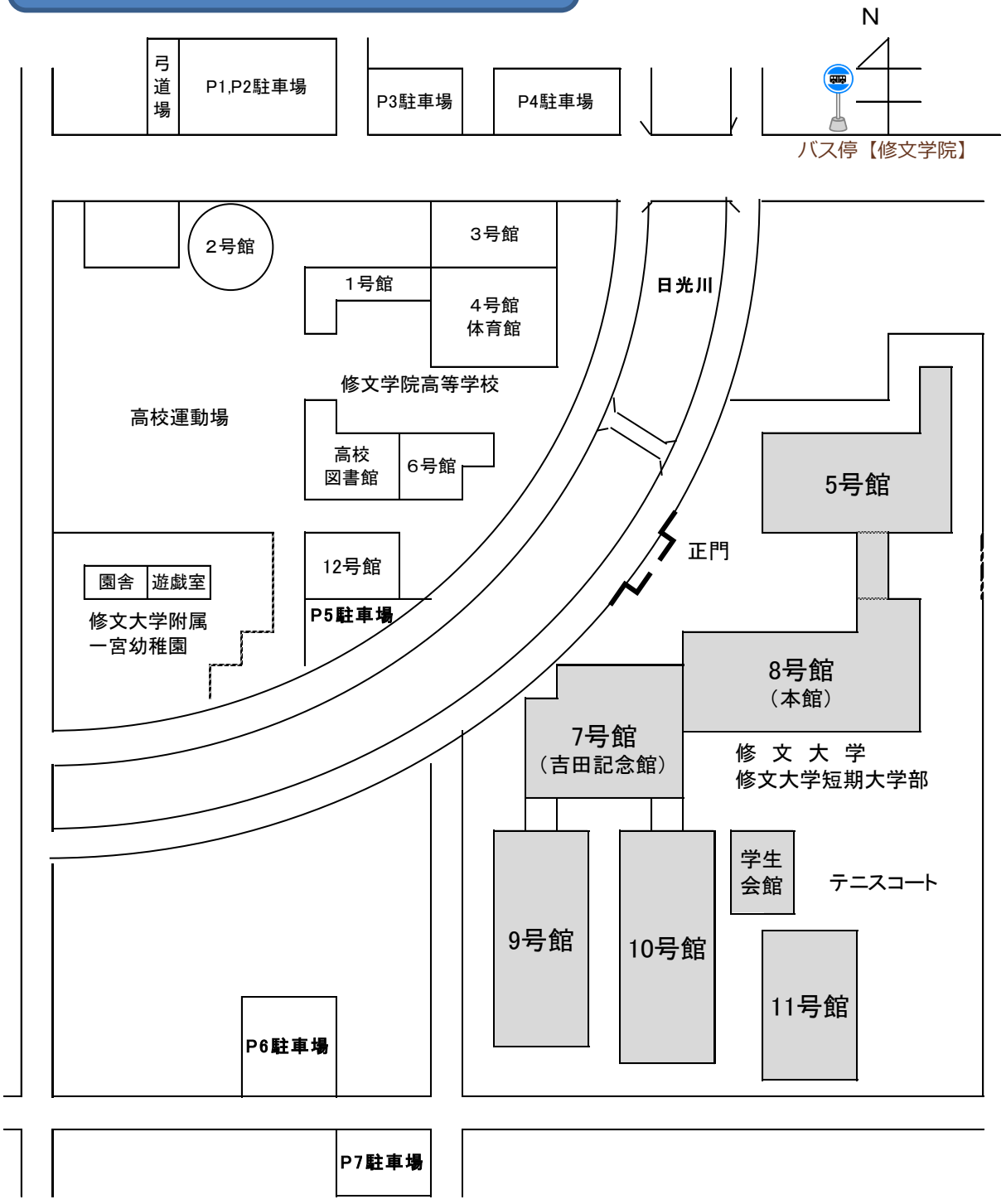
７．校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

※令和５年度

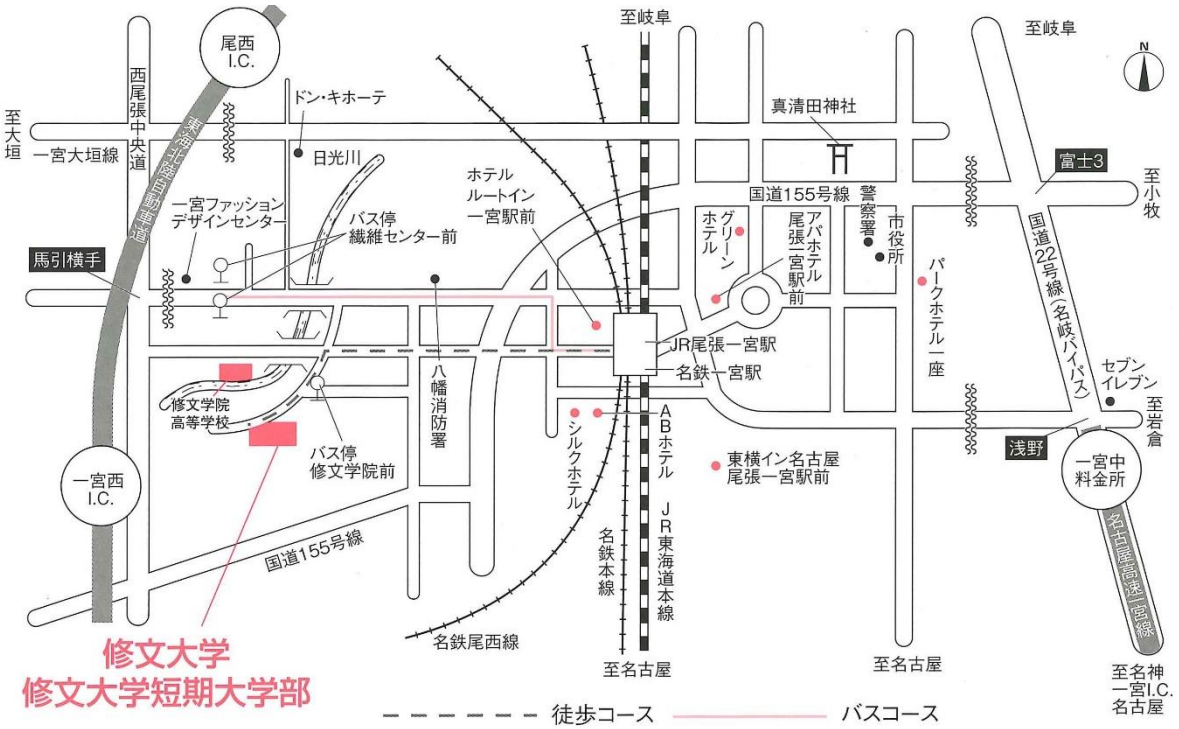
１）所在地「大学の概要」

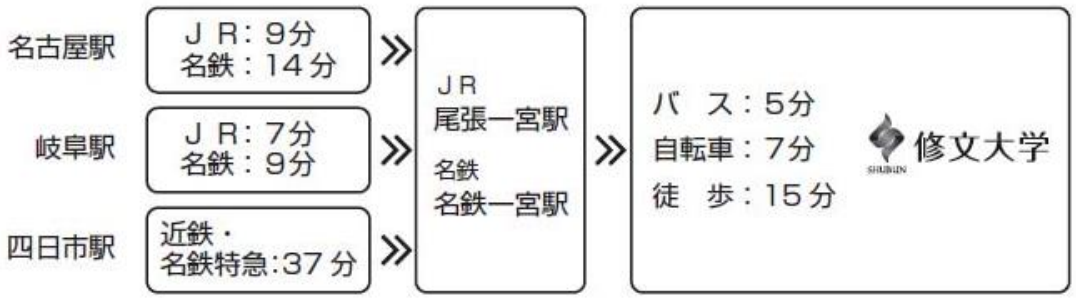
修文大学・修文大学短期大学部　位置図

修文学院　校舎配置図


N
弓道場
P1,P2駐車場
P3駐車場
P4駐車場
バス停【修文学院】
2号館
3号館
1号館
4号館
体育館
日光川
修文学院高等学校
高校運動場
高校
図書館
6号館
5号館
正門
園舎
遊戯室
修文大学附属
一宮幼稚園
12号館
P5駐車場
8号館
（本館）
7号館
（吉田記念館）
修　文　大　学
修文大学短期大学部
学生
会館
テニスコート
9号館
10号館
11号館
P6駐車場
P7駐車場

アクセスマップ、経路図（主な交通手段）





（２）課外活動の紹介（令和４年度　クラブ・同好会）

No.	名　称	主顧問	種類
1	バレーボール	多田井 幸揮	クラブ
2	バスケットボール	淺川　正堂	クラブ
3	バドミントン	梶浦　容子（蟹江 尊徳）	クラブ
4	新体操	加藤　渡（渡邊）	クラブ
5	フットサル	坂本　達哉	クラブ
6	ダンス	中野　靖彦（安形　学）	クラブ
7	絵本会	濱口　美紗希	クラブ
8	ピアノ	髙橋　早紀子	クラブ
9	パティスリー	相墨　一彦	クラブ
10	パソコン	増尾　明	クラブ
11	手話	中村　美奈子	クラブ
12	SNST	水田　文	クラブ
13	修文ミニトラ	田村　明	クラブ
※14	ローターアクトクラブ	小笠原　智子	同好会
※15	ボードゲーム	大西　一功	同好会
※16	精神衛生会	足立　勝宣	同好会

※は同好会

中長期計画の「学生の積極的なボランティア活動の推進」、「地域とのボランティア体制の整備」においては、新型コロナウイルス感染防止のため毎年行われているボランティア活動は全て中止となり目標達成はできていない。「クラブ・サークル活動の多様化で参加率 70%以上」においても新型コロナウイルス感染防止のため、クラブ活動中止の期間も長く、新入生の勧誘活動も十分にできず目標の達成には至っていない。令和４年度には制限がありながらも各種諸行事が行われるようになってきており、ボランティア活動も徐々にではあるが参加できるようになってきた。次年度以降、新型コロナウイルス感染状況をみながら参加率達成に向けて学生会とともに参加率増加に向けた企画等を計画していきたい。

８．授業料、入学金その他の大学が徴収する費用に関すること…※令和５年度

（１）修文大学

①健康栄養学部・管理栄養学科

	一年次				二年次以降		
	入学手続時	前　期 （入学手続時）	後　期	計	前　期	後　期	計
入学金	200,000			200,000			
授業料		335,000	335,000	670,000	335,000	335,000	670,000
教育諸費		230,000	230,000	460,000	230,000	230,000	460,000
計	200,000	565,000	565,000	1,330,000	565,000	565,000	1,130,000

②看護学部・看護学科

	一年次				二年次以降		
	入学手続時	前　期 （入学手続時）	後　期	計	前　期	後　期	計
入学金	200,000			200,000			
授業料		495,000	495,000	990,000	495,000	495,000	990,000
教育諸費		230,000	230,000	460,000	230,000	230,000	460,000
計	200,000	725,000	725,000	1,650,000	725,000	725,000	1,450,000

②医療科学部　臨床検査学科

	一年次				二年次以降		
	入学手続時	前　期 （入学手続時）	後　期	計	前　期	後　期	計
入学金	200,000			200,000			
授業料		495,000	495,000	990,000	495,000	495,000	990,000
教育諸費		230,000	230,000	460,000	230,000	230,000	460,000
計	200,000	725,000	725,000	1,650,000	725,000	725,000	1,450,000

（２）修文大学短期大学部

①生活文化学科　各コース共通

	一年次				二年次以降		
	入学手続時	前　期 （入学手続時）	後　期	計	前　期	後　期	計
入学金	200,000			200,0000			
授業料		330,000	330,000	660,000	330,000	330,000	660,000
教育諸費		175,000	175,000	350,000	175,000	175,000	350,000
計	200,000	505,000	505,000	1,210,000	505,000	505,000	1,010,000

②幼児教育学科　第一部

	一年次				二年次以降		
	入学手続時	前　期 （入学手続時）	後　期	計	前　期	後　期	計
入学金	200,000			200,000			
授業料		250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000
教育諸費		125,000	125,000	250,000	125,000	125,000	250,000
計	200,000	375,000	375,000	950,000	375,000	375,000	750,000

③幼児教育学科　第三部

	一年次				二年次以降		
	入学手続時	前　期 （入学手続時）	後　期	計	前　期	後　期	計
入学金	200,000			200,000			
授業料		165,000	165,000	330,000	165,000	165,000	330,000
教育諸費		85,000	85,000	170,000	85,000	85,000	170,000
計	200,000	250,000	250,000	700,000	250,000	250,000	500,000

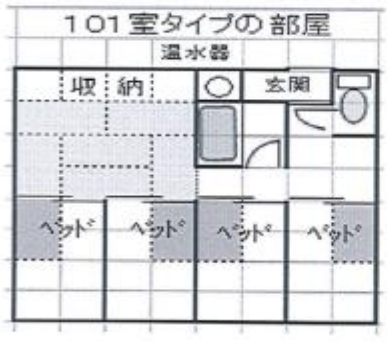
中長期計画の中核目標にある「教育目標確立」プロジェクトにより、学生が学納金を収められないために「学び」をあきらめることのないように、国の修学支援制度による授業料減免を受けることで負担軽減できるように全学的に周知、支援を行っている。また、延納や分納の申請を柔軟に受付け、納入プランを学生一人一人の条件に合わせて細かく対応し、計画的に「学び」と「学納金納入」が進められるよう支援体制を整えている。

（３）学生寮（桃花寮）：女子のみ

寮生活に要する経費（月額）

①入寮費　40,000 円　　②寮費　18,000 円　　③共益費　　4,000 円

＜桃花寮の１階　平面図＞



９．大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係わる支援に関すること

（１）学生サポート体制

①学生相談室

いろいろな心の悩みについて、相談員（臨床心理士）が親身になって、相談に応じています。

＜利用方法＞

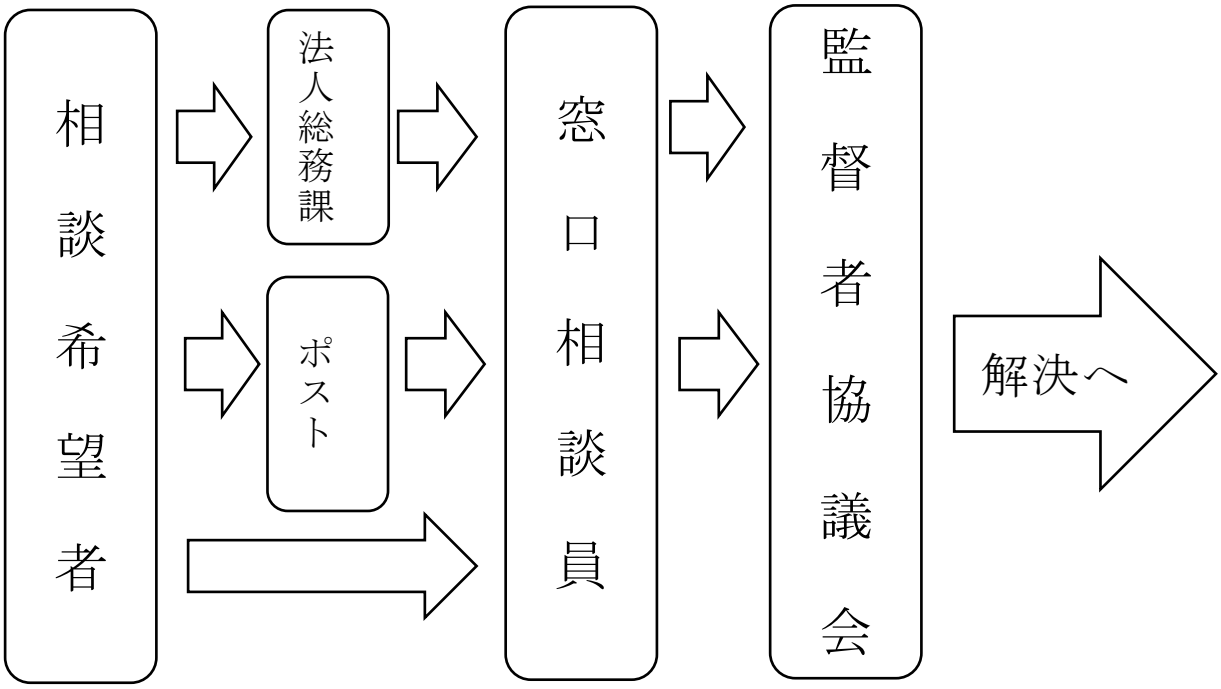
相談は、直接訪問するか、もしくは予約をしていただきます。

申込用紙に必要事項を記入し、専用ポストに投函するか学生支援センター窓口に提出してください。

（２）ハラスメント

本学の学生、教職員、すべての関係者が、性や人権に関して差別されたり不愉快な思いで学院生活が脅かされたりしないためのガイドラインがあります。

＜相談窓口のしくみ＞

①相談しやすい窓口や方法を利用し、ひとりで抱え込まずに悩みを相談しよう。

②相談窓口及び監督者協議会は相談者のプライバシーや人権を守り、保守義務を遵守します。